

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第199版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

竹取新聞に関する皆様のご意見やご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見もお待ちしております。  
お電話やメールでもOK！  
050-1744-8823  
info@caguya.co.jp



今回、手に取ってみると、学生の頃の学びとはまた違った面白さを感じました。

## 人の育ちに必要なもの ～「大和魂」を語源から読み直す～

は、「世に用ひらるる方」⇨処世的手腕・判断能力として説明されてきました。

さらに後代の『大鏡』でも、藤原時平を評する文脈で「大和魂」を語る用例があり、政治の場での才覚・機知の意味合いで扱われています。一方で江戸時代以降になると、国学などの潮流の中で「民族精神」「日本精神」といった方向が強調され、現代の耳にはそちらが先に立ちやすくなつたようです。明治や昭和にかけての意味の変遷も興味深いのですが、私が今回いちばん惹かれたのは、やはりこの言葉の「原点」のほうでした。

大和魂が「現場の実装力（運用知）」に近い言葉だったのだとしたら、「大和魂が育つ環境づくり」は、時代が変わってもなお「人の育ち」にとって大切な要素であるように感じたからです。

アクティブラーニングなど、呼び方はさまざまですが、学校教育でも「知識の習得（形式知）だけで終わらず、子ども自身が学びを使って試し、失敗し、やり直ししながら運用知を育てられる場が必要だ」と長く言われ続けていま

す。同時に、私たち大人の社会でも、働き方改革という言葉とともに、同じ課題を抱えている組織が少なくないことを、日々実感しています。知識や制度は整っているのに、現場でうまく回らない。学びはあるのに、目の前の人や状況に合わせて使いこなせない。そんな「形式知が運用知になりきれない」もどかしさです。

そんな中で私が光明を感じるのには、やはり保育の現場です。子どもが自分で選べる余白があり、子ども同士の関係性が尊重され、一人ひとりの発達に寄り添った環境の中で、子どもたちは運用知を存分に発揮し続けています。思いどおりにならない場面で折り合いをつけたり、遊びを工夫して更新したり、相手の反応を見て関わり方を変えたりする姿には、「学びを現実で生かす力」が生きて表れています。私たちはその姿から学べる場所において、見守る保育から学べる環境において、矢印を自分たちに向けて改善を続けていける位置にいます。そんな幸せをあらためて感じています。（眞田海）

## あいうえお他己紹介

弊社では、会議の議題に入る前や一円対話の前に「アクティビティ」を行っています。一般的には「アイスブレイク」と呼ばれるもので、意見を出しやすい環境をつくり、会議で同じ目的に向かいやすくなるために実施しています。お客様にも園内で行えるものを提供できるよう、まずは社内で行い、改善を重ねながら形にしています。

先日は「あいうえお他己紹介」というアクティビティを行いました。これは、クルーそれぞれの名前の頭文字（例：さ・な・だ・ゆ・り）を使い、他のクルーがその人の特徴や人柄を表現する「あいうえお作文」形式のアクティビティです。頭文字ごとに異なるクルーが担当するため、人柄を表しつつ、次の人につながる文章を考える必要があります。こちらはチームワークを高める目的で企画しました。

実際に誕生した他己紹介を下の画像にてご紹介します。素敵な他己紹介が生まれました。

のみやま ひろあき  
「あいうえお他己紹介」の目的は、人柄をよく表わしています。その人のことをみんなできっと考える時間にもなりますね！

おくやま たくや  
「あいうえお他己紹介」の目的は、人柄をよく表わしています。その人のことをみんなできっと考える時間にもなりますね！

人柄をよく表わしています。その人のことをみんなできっと考える時間にもなりますね！

最近、選挙演説などで「大和魂」という言葉をよく耳にしました。いまは「日本人らしさ」や「日本固有の精神」といった独自の主張、あるいは気概・根性の響きで受け取られがちですが、語源をたどってみると、少し違う顔が見えてきました。文献上の初出とされる『源氏物語』「乙女」では、夕霧を大

述べています。ここでの「才」は、漢学の素養（漢才）を指している、学問という土台があつてはじめて「大和魂」が世の中で強く働く、という構図で語られていました。つまり、漢才⇨学力（形式知）に對して、大和魂は、その学びを現実の場で使いこなし、状況を見立て、判断し、成果へつなげていく力。いわば現場の実装力（運用知）に近い意味合いで使われていたようです。辞書・注釈でもこの箇所

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## ひな祭り

早いもので来月はもう3月、年度末ですね。そして3月3日は「ひな祭り」。昔からある伝統行事ということで、園やご家庭でもひな人形を飾っている方も多いと思います。

現在のひな祭りは、女の子の健やかな成長や幸せを願う行事ですが、昔は季節の変わり目に体調を崩さないように、無病息災を願う厄払いの日だったそうです。その由来には諸説あり、もともとは中国の「災いを人形に移して川に流す」流し雛の風習が日本に伝わり、平安時代に貴族の子どもたちのひいな遊び（人形遊び）と結びついて、その後、人形を流す代わりに家に飾ってお祝いする形になったとも言われています。



【はまぐりのお吸い物】  
はまぐりの貝殻は、対になる貝殻同士が完璧にぴったりと合いますが、他の貝とは決して合わない特徴があります。この性質から「一生一人の伴侶と添い遂げる」という願いが込められた食材として親しまれ、縁結びのシンボルとして歴史を刻んできました。



【甘酒】  
甘酒には、災いを払う意味があり、白色は清らかさの象徴、甘く優しい味は、幸せな成長への願いが込められています。

そんなひな祭りには、ちらし寿司やはまぐりのお吸い物、菱餅、ひなあられなど色々な行事食がありますね。ひな祭りの行事食は華やかなものが多く、一つひとつに色々な意味が込められています。例えば定番のちらし寿司には、たくさん具をのせることで「幸せが広がる」という願いがあったり、えびには「腰が曲がるまで長生きできるように」、豆には「まめに働き、元気に過ごせる」、穴の先まで見えるれんこんには「将来を見通せる」、黄金色の錦糸卵には「豊かさ・おめでたさ」を表したり、酢飯の酢には「邪気を払う」など、それぞれに意味があったりしますから、改めてすごい一皿であることを感じます。

そう考えると、行事食は単なる食事ではなく、祈りや祝いが形になったものでもあり、ある意味「食べるお守り」のような存在にも思えてきます。女の子のお祝いはもちろんですが、女の子に限らずそれぞれに長生きや健康、明るい未来への願いやお祝いの気持ちを「食」に込めたいだく機会にしてみるのもよさそうですね。

（宮前奈々子）

## 一期一会庵

### 見守り合える場

「強み」というものがあります。これを一般的な定義では、「自分が自然に発揮できて、成果につながりやすい能力や資質」ともいいます。このポイントは「無理をせず自然体でいるときもつとも力を発揮するものである」ということ、これを私は別の言い方で「徳」と呼びます。この「徳が引き出されるようにしていくこと」、それが私が考える「強みを活かす」ことです。

それぞれ人には必ず何らかの持ち味というものがあります。同時に会社にも持ち味があります。その持ち味がそれぞれに最大限発揮されるにはどうすればいいか。みんなで足りるを知り、その持ち味の価値に気づき、その持ち味を活かすことに行動を絞るとき、唯一無二のブランド価値を高めることにもなるのです。

例えば、私の場合はご縁に従うという生き方があります。ご縁で到来したものは選ばないと決めてから、すべてをご縁として承ります。時には自分に都合のよくないことばかりですが、そのどれもをご縁として受け取り真心で意味付けしていきま

行っているものです。そしてその中で得られた様々な能力や資質がどのように活かされ、何のために与えられたのかを整理すると自分の「徳」が次第に観えてくるのです。孔子は、論語の中で「五十にして天命を知る」ともいいました。

万象具徳というように、この世のあらゆるものには必ず強みがあります。強みがないものなど存在しません。それは持ち味がないものがないということ。小さな植物であろうが大きな動物であろうが、無機質であろうが微生物などの存在であるうが持ち味があるものです。これは持ち味が見える人と見えない人がいるだけです。大事なことはお互いがその強みを活かすために、お互いの持ち味を心から尊敬できるかということです。それが重要になります。そしてそれは日々の暮らしで徳を積むという実践によって磨かれていくものであろうとは思っています。その一つに私たちが大切にしている「一円対話」があります。これも徳を積むことのひとつです。

徳を積むというのは、強みを活かして続ける精進と似ています。自然体でみんなが活き活きと働き助け合える場を育てていくことで同時に徳もまたその場に醸成されていくものです。

引き続き、子ども第一義の社業の実践を通して見守り合える場を子どもたちのいる現場に伝承していきたく

（野見山広明）

### 編集後記



今年も「立春大吉」!

立春も過ぎ、まだまだ寒いですが暦の上では春ですね。立春と言えば、子どもの頃から母が楽しみに部屋の出入り口に厄払いで「立春大吉」の紙を貼っていた思い出があります。前日の節分の豆まき

と共に、なんだかワクワクした記憶もあって、大人になり実家を出てから自分でも続けている大切な風習になっています。いよいよ春。春と共に、皆様にたくさんのお福が訪れますように。

（宮前奈々子）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

